

みんなの思いを 教えてください

五十年先も、百年先も
子どもたちの笑顔が輝く
そんなまちにしていきたい
子どもたちにも
地域にも愛される
そんな学校を作りたい
みなさんの知恵や夢を
どうか教えてください

福津市長 原崎智仁



福津市は、人口増加率が県内の市町村で1位、全国の市区では東京都心部を除くと全国2位のペースで人口が増え続けています。特に宮司・福間・福間南エリアでの増加が多く、今のままでは、既存の小中学校だけでは受け入れが難しい状況となっております。そこで、市民のみなさんに学校の新設などについて、どう対応していくべきか、ご意見を聞く機会を設けたいと考えています。

5・4制によって小学校は1学年分児童が減るため、福間小学校、福間南小学校の過密化の緩和が期待できるほか、福間中学校は福間小学校から進学する生徒だけになるため、過密化の解消になります。

中央公民館敷地案

もう一つは、社会教育施設である中央公民館・わかたけ広場の敷地に小学校を新設する案です。竹尾緑地案でも、中央公民館やわかたけ広場は財源捻出のため廃止せざるを得ない状況ですが、この案は、廃止後の敷地を有効活用するものです。旧津屋崎町と旧福間町の融合を象徴する学校となることが期待されます。

校区を再編することで、福間小学校、福間南小学校、津屋崎小学校の過密化を緩和します。福間中学校の教室不足が予想される令和6年から20年頃までは、リース校舎などでの対応を検討します。

市民に愛される学校に

学校の新設は、福津市となつてからももちろん初めてですし、

「多子化」が進む福津市

全国的には極端な少子化が進み、各地で小中学校の統廃合が行われています。

しかしながら、市では、福間駅周辺のほか、宮司地区などで急激に子育て世代の人口が増加しており、特に福間小学校、福間南小学校、津屋崎小学校では、千人規模の「過大規模化への対応」が喫緊の課題となっております。

福間小学校と福間南小学校の子どもたちが進学する福間中学校も1学年で500人を超える規模となることが予想されており、これまでに市や市教育委員会で対策の協議を進めてきましたが、結論に至ることができていません。

したがって、早急な解決について、今後も「※総合教育会議」などでさらなる意見交換を実施しながら、市として誤解を生じない真の情報提供、慎重な判断が必要な状況です。

財政的な課題と行財政改革

小学校2校、中学校1校の新

考としていくため「市民意向調査」を実施します。

市民意向調査の概要

目的 過大規模校の解消、緩和に関して、まちづくりの観点を含め、学校教育行政についてのご意見をいただき、次回総合教育会議の参考とします

対象 市内に住民票がある18歳から70歳の人のうち、二千人を無作為抽出し、8月下旬に資料

設が、過大規模化解決に対する理想ではありますが、市の財政的には1校を新設するのが精一杯です。

学校を新設するには用地を購入しなくても、初期費用として50億円程度、その後の維持管理費が年間数千円、億単位の費用を要する定期的な大規模改修が必要で、その費用を捻出するためには、公共施設の一部廃止や民営化などで、経費の削減と収入の確保を進めなければなりません。

現在検討しているのは2案

現在、コストと時間的な問題から、市有地に学校を建てることを前提として、二つの案が挙がっています。

竹尾緑地案

一つは、市南部のイオンモール横にある、都市公園である竹尾緑地の一部を造成し、学校用地として中学校を新設する案です。同時期に福間小学校と福間中学校、福間南小学校と新設中学校を小中一貫校とした上で、小学6年生は中学校に通う、5・4制を導入します。

と共に参加のお願いの手紙を送付します。

定員 50人 ※定員を超える応募があった場合は抽選。日時や場所は、追ってお知らせします。

また、市民意向調査では選ばれていなかった皆さんも、ぜひ注目していただき、学校についての意見を市までお寄せください。

問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎43・8113、メール hisho@city.fukutsu.lg.jp



学校新設予定地案



※総合教育会議とは、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第1条の4に規定されている会議。市長が招集し、教育行政の重要事項などを市長と教育長、教育委員で協議する。直近では学校新設について7月30日に開催し、会議録は市公式ホームページで公開されている他、会議事の配布資料は同ホームページの「市長の部屋」「市長ダイアリー」でダウンロードできます